

平泉文化セミナー 第 55 回例会

平泉文化研究センターでは、東アジアにおける総合的「平泉学」の構築を図るための一環として、平泉文化セミナーを定期的に関催しております。

今回は、第 55 回例会として下記により開催しますので、ふるってご参加ください。参加費は無料です。

岩手県立博物館蔵中国古印について

—平泉文化における古印の紹介を兼ねて—

岩手大学平泉文化研究センター教授

劉 海宇氏

要旨: 古印とは、公私のしるしとして文字やシンボルを彫刻(鑄造)した古代の印章のことである。平泉では柳之御所遺跡出土の「磐前村印」及び宋版一切経に押捺された「明州城下吉祥院大蔵経」印影がよく知られており、平泉文化研究における貴重な資料である。岩手県立博物館に収蔵される「太田孝太郎コレクション」中国古印は、先秦期から明清期にかけて各時代の印章 1091 点及び印譜『夢庵蔵印』・『楓園集古印譜』(正統)等を含む関連資料群となる。これらの古印は、日本における中国古印五大コレクションの一つとして数えられる。本発表では中国古印の概説及び岩手県立博物館蔵印の概要を報告するとともに、その学術的価値についても紹介したい。

令和 2 年 2 月 27 日 (木) 17:00~18:30
岩手大学教育学部 1 号館 2 階 E21 講義室